解　説

第 ７ 章　　　建設・住宅

住宅の状況

総住宅数は468万戸、空き家率は15.2%

平成30年住宅・土地統計調査によると、総住宅数は468万200戸で、前回調査(平成25年)に比べ9万4,200戸(2.1%)増加しました。このうち、居住世帯のある住宅(普段人が居住している住宅)は394万9,600戸(構成比84.4%)、居住世帯のない住宅(普段人が居住していない住宅)は73万700戸(同15.6%)です。

空き家数は70万9,400戸で、前回調査に比べ3万600戸(4.5%)増加し、総住宅数の15.2%を占めています。

 総住宅数、空き家数・空き家率



[第7章16表より]

住宅の建て方

　5割強が共同住宅

平成30年住宅・土地統計調査によると、一戸建は160万7,400戸で住宅全体の40.7%、共同住宅は218万6,300戸で同55.4%です。

前回調査(平成25年)に比べ、一戸建は2万5,800戸(1.6%)、共同住宅は4万2,300戸(2.0%)、それぞれ増加し、長屋建は1,800戸(1.2%)減少しました。

 住宅の建て方別割合



[第7章12表より]

新設住宅着工

6万9,614戸で『持ち家系』が5割弱

住宅着工統計によると、令和4年に着工した新設住宅戸数は6万9,614戸で、前年に比べ614戸(0.9%)増加しました。このうち、持ち家(自己の居住用に建築)と分譲住宅(事業者が販売目的に建築)を合わせた戸数は3万3,780戸(構成比48.5%)で前年に比べ2670戸(7.3%)減少、貸家･給与住宅は3万5,834戸(構成比51.5%)で前年に比べ3,284戸(10.1%)増加しました。

新設住宅の総床面積は463万1,097㎡で、前年に比べ16万4,607㎡(3.4%)減少しました。

 新設住宅着工戸数、総床面積

[第7章7表より]

産業用建築物着工

卸売業，小売業用が59棟(13.9％)減少

建築着工統計調査によると、令和4年に着工した産業用建築物棟数は2,971棟で、前年に比べ88棟(2.9%)減少しました。産業別では、製造業用が448棟(構成比15.1%)と最も多く、次いで医療，福祉用が393棟(同13.2%)、卸売業，小売業用が364棟(同12.3%)です。

 産業用建築物(着工)の棟数及び床面積

[第7章5表より]